

投稿

世界天文コミュニケーション会議

2018 in 福岡 に参加しよう

矢治健太郎 (国立天文台)

1. はじめに

「世界天文コミュニケーション会議」は、“Communicating Astronomy with the Public (CAP)” のことで、天文学に携わる総ての人と一般社会とのコミュニケーションに関する最近の取り組みについて、様々な意見や経験を交換する場として、2005年に設立された国際会議である。この会議を通じて、効果的で実績のある数多くの科学コミュニケーション事例が紹介されている。[1][2][3]

CAP で得られる知見を参加者が母国に持ち帰ることで、各国における天文学・天文科学文化の発展、市民参加の推進などが期待され、すべての参加者の活動の幅が広がることが期待できる。国境を越えて、言葉や習慣、信仰や信条の違いを乗り越えて人類が一つになっていくことに寄与することが本会議の目的の一つとなっている。

CAP は 2005 年にドイツのミュンヘンで初めて開催され、これまで 6 つの都市で行われてきた (表 1)。従って、2018 年の CAP は、同会議としては 7 回目の開催となる。複数の立候補都市から 2 回に渡る審査会の後、最終選考候補地 5 市が選出され、その中から福岡



図 1 CAP2018 のポスター

市が選出された。アジアでは 2011 年の北京に次いで 2 度目、日本では初となる開催である。また、日本開催にあたり、今回の “Communicating Astronomy with the Public (CAP)” の日本語名称を「世界天文コミュニケーション会議 2018 in 福岡」(以下、CAP2018) とした。現在、組織委員会で、開催の準備が進められており、すでにホームページが公開されたり [4][5]、広報用ポスターも作られている (図 1)。

この国際会議の主催は、国際天文学連合 (IAU) のコミッション 2 「Communicating Astronomy with the Public」。国際天文学連合には世界 98 の国と地域から 10,000 名が加

2005	ミュンヘン(ドイツ)
2007	アテネ(ギリシャ)
2010	ケープタウン(南アフリカ)
2011	北京(中国)
2013	ワルシャワ(ポーランド)
2016	メデジン(コロンビア)
2018	福岡(日本)

表 1 過去の開催地

盟、国際協力を通じて、あらゆる面で天文学の発展を促進し保障していくことを使命としている。

CAP2018 開催にあたり、自然科学研究機構国立天文台と福岡市は、互いに天文学研究機関として果たすべき責任と自治体として積み重ねた科学コミュニティとの協働の実績を携えて、CAP2018 開催のために手を取り合った。天文学のアウトリーチや教育を担う国際コミュニティを日本に迎え入れ、日本そしてアジア地域の天文学コミュニケーション分野の最新の進展を直接体験してもらうことが、今回の CAP2018 の目指すミッションである。

2. CAP2018 の概要

2.1 開催場所：福岡市科学館

CAP2018 の会場は、福岡市科学館(図 2)。2017 年 10 月に九州大学六本松キャンパスの跡地に新しく開館予定である[6]。名誉館長に宇宙飛行士の若田光一氏を迎えている。

基本展示室では、「宇宙」「環境」「生活」「生命」の 4 つの分野をワンフロアで体験できる。最新技術を紹介する参加体験型展示ゾーンやサイエンスショーステージ、情報ライブラリー、実験室、またものづくりの拠点となるオープンラボ・クリエイティブラボでは、市民と専門家が科学館のコンテンツを協創していく。「科学」と「感性」の交流拠点として、福岡から未来を創造していく科学館である。



図 2 建設中の福岡市科学館

CAP2018 では、300 人収容のサイエンスホール、ドーム直径 25m・最新式光学装置と高解像度デジタル投影機を備えたドームシアターを会場に行う。

所在地：福岡県福岡市中央区六本松 4 丁目 2
最寄り駅：福岡市地下鉄七隈線六本松駅下車すぐ

2.2 開催日程：

2018 年 3 月 24 日(土) から 28 日(水)

主要スケジュール：

24 日(土)	開会式、基調講演、招待講演、分科会(4 会場) 市民歓迎イベント
25 日(日)	招待講演(市民・アマチュア、教育関連)、分科会他
26 日(月)	ドームセッション 招待講演(生涯学習関連) 分科会、バンケット
27 日(火)	<午前>全体講演、ビジネスセッション <午後>エクスカージョン(大宰府など)
28 日(水)	分科会(メディア他)、全体会、閉会式、フェアウェルパーティー(お花見など)

※国際会議のため、プログラムは基本的に英語で進行される。

2.3 開催テーマ

Communicating Astronomy in Today's World: Purpose & Methods

「今日の世界で天文学を伝える目的と方法」

2.4 CAP2018 のトピックス

CAP2018 では以下のトピックスを取り上げる。各トピックスの具体的内容は、CAP2018 公式サイト(英語)参照[4]。

○天文コミュニケーションの課題

Current Challenges in Astronomy Communication

○天文コミュニケーションの実践例
Best Practices in Public Outreach
○障がい者とマイノリティと共に楽しむ天文学
Inclusion, Diversity, Equity and Empathy in Communicating Astronomy
○よりよい世界を目指す天文コミュニケーション
Astronomy Communication for a Better World
○天文コミュニケーションにおけるメディアの役割
Media's Role in Astronomy Communication
○天文学の公衆関与における先端技術の活用—マルチメディア・SNS・没入体験—
Using Multimedia, Social Media, Immersive Environments and other Technologies for Public Engagement with Astronomy
スペシャルトピックス：
○国際天文学連合 100 周年における天文コミュニケーションの展開
Public Engagement Opportunities during the IAU Century Celebration

2.5 ゲストスピーカー

各国・各界から以下の招待講師を迎える予定である。

海部 宣男 (IAU 前会長)
村山 齊 (東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構初代機構長)

NASA、ESA 等主要研究機関の広報責任者
発展途上国の天文機関の所長及び広報責任者
他

2.6 関連イベント

日本や福岡の文化を体験、楽しむ各種イベントを企画している。各イベントの具体的内容は、CAP2018 公式サイト (英語) 参照[4]。

3/24(土)	ウェルカムセレモニー 場所：大濠公園 内容：能楽公演と天体観望会 参加費：無料
3/25(日)	パブリックイベント 村山齊氏による講演会 場所：福岡市科学館 参加費：無料
3/26(月)	バンケット 場所：ホテルニューオータニ博多 参加費：¥5,000
3/27(火)	エクスカージョン A コース：福岡市内ツアー B コース：大宰府・九州国立博物館 参加費 A：¥2,000 B：¥9,000

3. 参加登録をするために

3.1 開催までのスケジュール

CAP2018 の参加登録・発表申込はすでに開始されている。

参加登録・発表申込 開始	2017年5月1日
発表申込・受付終了	2017年10月15日
アナウンス 第3報	2017年11月1日
発表審査・結果告知	2017年11月30日
早期参加登録・受付 終了	2017年12月15日
最終プログラム・公 開	2018年1月30日
参加登録(通常)・受付 終了	2018年2月28日
CAP2018 開催	2018年3月24-28日

3.2 旅費援助

CAP2018 では、希望する参加者・発表者には旅費援助の制度がある。ただし、基本的に海外からの参加者が対象であるが、参考までに旅費援助のスケジュールを以下に紹介する。

旅費援助申込受付開始	2017年5月15日
旅費援助申込受付〆切	2017年9月15日
旅費援助決定	2017年11月1日

3.3 参加費

	一般料金	学生料金
通常参加登録 (2017年12月16日 以降の申込)	¥35,000	¥20,000
早期参加登録 (2017年12月15日 までの申込が対象)	¥30,000	¥15,000
1日参加	¥5,000	¥4,000
2日参加	¥8,000	¥7,000

※キャンセルポリシー

1. 2018年2月28日まで：手数料¥3,000を引いて返金
2. 2018年3月1日以降：返金不可

3.4 参加者

CAP2018では、以下のような方々の参加を期待している。

- ・科学コミュニケーター
- ・大学・研究組織 広報担当者
- ・天文学者
- ・教育関係者・天文愛好家
- ・科学館職員、学芸員、プラネタリウム関係者
- ・人文社会科学研究者、自然科学研究者
- ・報道関係者、科学ライター
- ・クリエイター、アーティスト

3.5 発表形式

CAP2018では、以下の形式で発表を募集する。

(1) ポスター発表

期間中会議場に掲示し、所定のセッションでポスター前に立って議論することができる。

(2) 口頭発表

10分または20分のプレゼンテーション時間を提供する。スライド、ビデオ、写真などを使用可能。ドームセッションでは、ドーム

映像を使って発表することもできる。

(3) ワークショップ

少人数の参加者に新しいスキルを伝えるための90分のワークショップを企画できる。通常、2-3名のファシリテータにより実施され、インタラクティブで体験的な内容である。
※ 発表はすべて英語で行われる。

4. 途上国からの参加者のために～クラウドファンディングによる支援～

過去のCAPでは、日本だけでなく、アジアの国々からも毎回参加している。CAP2018は、日本の福岡で開催ということで、アジアからより多く参加することを願っている。しかし、旅費の支援が十分でないために、残念ながら参加を見送った人もいるだろう。そこで、CAP2018では、より多くの途上国の方々が参加できるよう旅費の支援を行ないたい。そこで、今回、クラウドファンディングに挑戦することにした。このクラウドファンディングはすでに始まっており、2017年8月3日に募集終了となっている。[7]

詳しくは以下のページを見てほしい。

「CAP2018in 福岡」への発展途上国からの参加を支援！

<https://camp-fire.jp/projects/view/21790>

支援対象としては、例えば天文コミュニケーション活動で豊かな実績を持つ、ミャンマー、カンボジア、ネパール、モンゴル、フィリピン、ベトナム、インドネシア、ペルー等を想定している。このクラウドファンディングでは、一人当たり10万円の支援で、30名の参加を目標に活動している。

今回のCAPで得られる知見を発展途上国からの参加者が母国に持ち帰ることで、各国における天文学・天文科学文化の発展、市民参加の推進などが期待され、現在はなかなか星や宇宙の話に触れる機会の少ない発展途上国の方々にも、天文の楽しさを伝えることに

つながる。また途上国での工夫を凝らした活動事例を知ること、すべての参加者の活動の幅が広がるのが期待できる。国境を越えて、言葉や習慣、信仰や信条の違いを乗り越えて人類が一つになっていくことに寄与することが本会議の目的の一つである。

集まった資金は、アジア太平洋地域を中心に発展途上国からの参加希望者への旅費・参加費支援に使われる。ぜひともこの趣旨にご理解いただき、多くの方にクラウドファンディングに協力してほしい次第である。

twitter でも、このクラウドファンディングについて随時紹介しているので、フォローしていただければ幸いである。

twitter: @CAP2018Fukuoka

5. CAP に参加してきた立場から

過去の CAP については、これまで天文教育誌上で報告してきた[1][2][3]。CAP に参加してきた立場から、ここで改めて、CAP に参加する意義について、3点ほど言及したい。

(1) 世界の天文教育普及の動向がわかる。海外の情報はなかなか届かないことが多いので、CAP のような場所で発表を聞くことは新鮮であるし、参考になるし、刺激にもなる。CAP2010 でのチャンさんの香港での光害に対する取り組みは圧巻だった。

(2) 参加者とのコミュニケーションは、CAP の毎回の楽しみ。不器用な英語でも意外と通じるもので、各国の天文事情を知るいい機会になる。参加者たちとは今も SNS などでもやりとりしている。

(3) 自分たちの活動をアピール：初めて参加した CAP2010 では、わたしの発表に対して、いろんな参加者から「グッド・プレゼンテーション」と言っていた。いまだに強烈に印象に残っている。日本にはユニークな取り組みが多いので、CAP での発表する意義は大きい。

6. 結びにかえて

2018年3月24日(金)から28日(水)、福岡市科学館を会場に、「世界天文コミュニケーション会議2018 in 福岡」(CAP2018 in 福岡)が開催される。CAP はアジアでは2回目、日本では初めての開催である。世界中から天文コミュニケーション関係者が一度に集う貴重な機会である。ぜひ、CAP2018 に参加して、各国の参加者と交流して、日本からも各自の天文教育普及のアクティビティを積極的に発信・紹介するいい機会にしてほしい。

CAP2018 へのお問い合わせはこちらまで。

contact-cap2018@prcml.mtk.nao.ac.jp

文 献

- [1] 矢治健太郎, 2012, 「Communicating Astronomy with the Public 2011 (CAP2011) 参加報告」天文教育, 24:44, p64-66
- [2] 矢治健太郎, 2015, 「Communicating Astronomy with the Public 2016 に参加しよう」, 27:3, p7-12
- [3] 矢治健太郎, 2017, 「Communicating Astronomy with the Public 2016 参加報告」, 29:1, p93-98
- [4] <https://www.communicatingastronomy.org/cap2018/>
- [5] <https://prc.nao.ac.jp/fukyu/cap2018/>
- [6] <http://www.fukuokacity-kagakukan.jp>
- [7] <https://camp-fire.jp/projects/view/21790>